明治二十一年一月二十五日發兌

以良都女

第十九號

東京
成美社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十九號目次

家政。
- いらつめ料理。
- 牛乳の良否を鑑定する法。
- シモヤケを治する法、并に別法。
- 枯れた聲を治する法。
- 呼吸の臭氣を去る法。
- 額樣に皺の上るのを防ぐ法。

小說。
- 空行月第十一回 美妙齋主人作。

流行。
- 流行物見本挿畫。
- 東牡丹の模樣。
- かすりひ形の模樣。
- ひゞ入り小紋。
- 三葉小紋。
- 紫銅づくり鏑矢の簪。
- 日本字モノグラム五種。

文藝美術
- 新作歌 佐々木弘綱 佐々木信綱 佐々木光子 山田美妙齋
- 枕の草紙まなびがき。
- 柳櫻都錦繪二幕目。

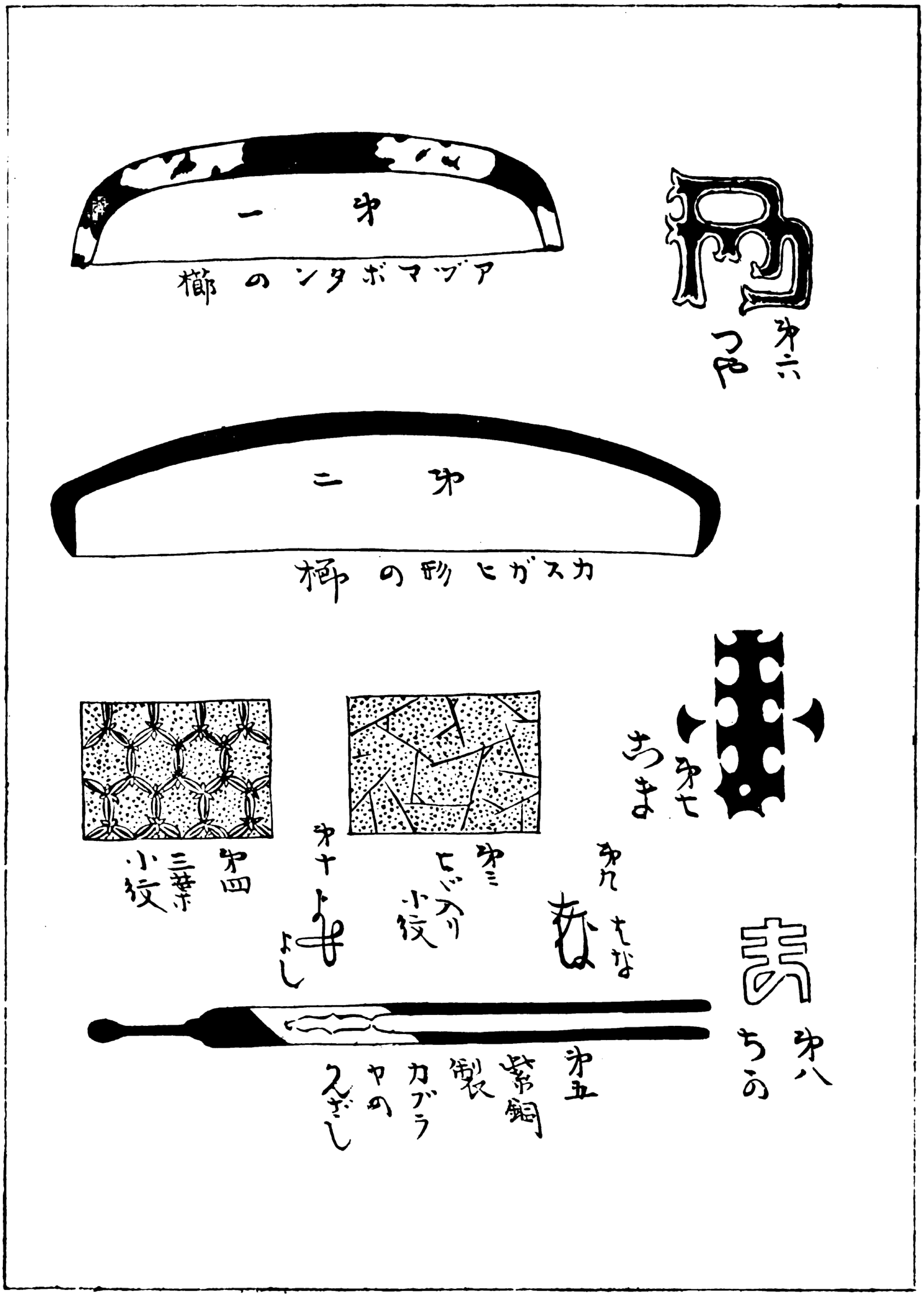
寄書
- 女子の德育は宗教に依るの外なきか。
- 如何にして女子を教育すへきや

雜纂。
- 少婦のため。
- 織物見本帳を製する事。
- アムモニアの効用。
- 黃金と玻璃。
- 極微世界。

新刊批評。
- 態度は品行の影。
- 理財の失策。
- 女學校の近邊に於る男子の屋まよひ。
- 詩人タッソの美談。
- 節儉は收入と同しもの。
- 猫は偷みしにあらず。
- 樂しいホームを持つ秘傳。
- 言文一致体の雜誌、
- 浮世の巷。
- もしやの草紙。
- 華胥の夢。
- 中原の鹿。
- めぐりあひ。
- 初戀。
- 因果。
- 蓮葉娘。
- 月雲雨面影。
- 曼府叛亂。
- 新小說。
- 細君。
- ユーベル。

通信問答。
- 初めて機嫌を傷けた人＝薄き眉を濃くする法＝齒痛の即効藥＝パンの食ひ方＝秘密の贈物＝名刺＝女の男帯＝廉價の洗濯＝手輕なる油扱法＝剛き髮毛を柔にする法

月報。


第一
アブマボタンの櫛
第二
カスガヒ形の櫛
第六 つや
第七 ちま
第八 ちの
第九 もな
第十 よし
第三 ヒビ入り小紋
第四 三葉小紋
第五 紫銅製カブラヤのかんざし

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十九號

家政

いらつめ料理

看客がたの御勧にしたがひ、この一月から家政欄内に料理法を出しますが、これは渾べて一種和漢洋を折衷し、つとめて口に適ふやう、衛生に背かぬやう企てた新奇の法で、皆記者が一々試みた上で御披露申そことと故出來損は無からうと思ひます。御氣に召したのが有りましたら一寸御試みあさッて御覧なさい。

いらつめ記者

第一　おぼろ玉子

錫でも鐵でも宜しいですが、平たい皿か鍋の上ふ厚さ二分ほどふ乳酪を塗り、さてその皿或は鍋を火にかけて急に乳酪を溶らし、その溶けた處を見計らッて玉子を二ッなり、三ッなり割ッて落とし、白味がやゝ固まるまで煮るのです。食べるのも醤油で用ゐるのが一番よろしいです（海苔を食べるやうふ）。さゝし、玉子ハ煮えても別の皿に取らず、煮る皿か鍋から直ふ食べる方が味を損じません。

第二　牡蠣の油煮

牡蠣五合ほどを取り、如何にもよく水を切り、醤油と味淋と砂糖とで適宜に味を付けた熱湯を茶飲茶碗ニ二杯ほど作りそれを前の牡蠣に掛け、火に掛け、煮立ッた頃に生の牛乳を茶飲茶碗ふ三杯ほど入れ、更に急に煮立て、それからまた牡蠣を好むだけ相應ふ加へ、烈火で三四分間煮、胡麻油を猪口に一杯入れ、十分に牡蠣を攪回し、終ッて鍋を下ろそ、これで料理は出來たのです。

牛乳の良否を鑑定そる法

あれは極めて容易な法ですが、大層有益なものです。よく磨いて毛糸編物の針を眞直ふして牛乳の中ふ入れ、入れるや否や矢張り眞直にしさまゝ急に引上けるのです。もし此時牛乳に混和物が無ければ必ずその牛乳の雫が何處かその針について居るもので。もし又その乳の中に水でも混ッてあれば假令その水の量はわづかでも決してその乳が針に止まることは有りません。（ヤング、レデイス、ジョーナル）

シモヤケを治す法

赤胡椒あるひは唐辛子ら一匁あらば焼酎を二匁にしてそれと交せ、その汁でシモヤケを洗ふのです。一寸荒い療治です。けれど効能ゞ有ります。

別法

もし又シモヤケが崩れて居て中々荒い藥をつけることが出來ませんなら、それは此の法で治ります。通例の白シヤボンを小刀でそこしばらり削落として粉にし、これと赤砂糖と煉交せ、この煉藥を毎夜シモヤケゑ塗ッて寐るのです。しろし毎日また赤シヤボンと冷水とで洗はあくては爲りませんいけません）、日ゑ一度づゝ、硼砂を薄く溶かした水で口を漱ぐのです。入齒で取引しが自由であれば、夜ざけは取つて硼砂を溶ろした水の中へあの齒を漬けて置のが宜しいです。

枯れた聲を治す法

硼砂を耳掻に二杯ぐらゐ口に含み、しづかに呑下すのです唾る深山に出て直に治ります。歌をうたふ人などゐは極めて必要です。（淑女文學雜誌）

呼吸の臭氣を去る法

毎夜寐る時ゑ十分齒を磨き（朝起きゐ時みがくばかりでは

いけません）、日ゑ一度づゝ、硼砂を薄く溶かした水で口を漱ぐのです。入齒で取引しが自由であれば、夜ざけは取つて硼砂を溶ろした水の中へあの齒を漬けて置のが宜しいです。

額椽に蠅の上まるのを防ぐ法

前のいらつめに額椽の洗ひ方を出しましたが、あれは額に蠅の來ぬ法です。折角美くしい金椽も蠅ゑとまられて汚あくなる、それを防ぐにハ韮の煎し汁をその額椽に引くのでそ蠅ハ、これあら、決して止まりません。あの法ハやはり、ガールス、オーン、ペーパー（少女の手がみ）といふ婦人雜誌に出て居ました。

小説

空行く月

第十一回

美妙齋主人

兎さま角さま思案に思案を重ねゐ上、終にやうやく完全無缺と思はれるらしい一ッの手段をば考付きましたが、しかし扨いざそれを行あはうと爲ると、さすらゑ決斷ゝ躊躇しなくもありません。弓之助は庭の中を一人で散歩して居る体

美麗はたい居間に閉籠もつて折角の決斷を手遊物にのみして居ます。

罪も咎も無い處の阿輝、それを此方から目的に取つて奸な手段を行なはうと爲て…もしその計策が行なはれたその曉にれ扨されほどに阿輝は失望して仕舞ふだらう、落膽してしまふたらう……その時の心持を假に我身に受けると考へて見れば隨分苦しさうは苦しさうで…

妙な想像力は婦女子の固有の物。憎い、いや、妬ましい阿輝、その阿輝は薄命な運を背負せせれば…實に人を祈らば穴二つ。つみもなき人を うけへば忘草、おのが上にぞ生ふといふなる」。その諺をその言葉では覺えて居ぬものゝ、兎に角左樣とは知つて居て、それで身づからその手段を行なはうと爲始めて。

いつか想像から生まれた阿輝の顏があり〳〵と目前へ現はれて來ます。「おや」とは思はぬながら意氣込は左樣思つたほどの工合でその顏をよく見れば曾て誰かある美婦人の寫眞を見て、あら美くしいと女ながら思ッたことが有る、その美婦人の顏そのまゝの阿輝です。もと見た寫眞の美婦人は無論歐洲の人、その故か、今目前へあらはれた阿輝の顏容……

あら、日本人だといふのに、金糸の髮に瑠璃の眼……「では無い譯だ、日本人ぢやもの」。と思へばそれ顏はいつか緑の髮に黒眼と變はッて紛も無い日本の美婦人……樣子ばかり歐洲の。

「こんな美くしい顏であればこそ……

想像の水に泛らんで居る想像は船、空中にあらはれた瓦斯の樓閣、その船、その樓閣が今更實物のやうに思はれるとは……さても情の切ないのは苦しいものでも。

無茶苦茶に無を有にする變則の哲學者…………泡沫無常のその有を取上げて眸子を凝らして睨殺すばかり。内心の内心ではその有は假の有ぢやと知ッて居なくもなくて、それで表向の心ではそらとぼけてそれを有とし考へ、身で身を際限も無く錯亂させて、終にはたまりかねて心に偏頗な重量を置くやうになると、まゝ心持もいゝやうです、その阿輝が弓之助の愛想づかしを得て失望して泣いて喚ぐ体が正によく見えて來て殊に泣顏までもたしかに聞えて來て……おや、おかし、悟ればその泣聲は鳥の聲でした。

「馬鹿な。妄想に驅られて心を惱ます」。この聲が誰いふと無く聞えて來ます。

「妄想に驅られて心を惱ますなに妄想…それが妄想か知らん。　妄想、妄想でもかまはないッ…成功は盗賊をも社稷の主とも爲るものを」

妄想と評をつけ、馬鹿と斷案を下し、さて更にそれを辨護して僅に心を諭します。　が、中々さとしにくい心です。活潑にはたらくだけ鋭敏な神經、絶えず腦に走馬燈をまはして是からの運命の影法師をあらはせば、その影法師の中には漠としてよくも分解らぬのもあるで、まだ實物より大きなのも有ります。

「いッそ、それとも斷念して仕舞はうか知らむ。　斷念してしまひさへすれば何も決して苦痛は無い、こンなに胸の。とても成功しないものと諦らめたら諦らめのつきやうも有りさうな」。

しかし、さうして……

「あきらめられない。　諦らめられるだらうと考へる頃は既に諦らめ得る處を一段通越した處だ「だらう」と考へるのはそも／＼既に「られぬ」といふ意味があるらしい。　これは何うしても諦らめられない」。

いつか手だけで別に働らいて手函の錠をぶち／＼明けて、

それから取出したのは短かい文句の書いてある紙。書いてある文句をば口の裡で讀む體です。　唇がかろく動いて、その顔には驚いたやうな風で身の前後を急にふりかへッて見廻はした眼です。　が、一言、Marriage と、すなはち「婚禮」。

讀了ッて何か呟いたのが一言、二言。　更に丁寧に紙をたゝんで一寸テーブルの上に置き、また氣にかゝると見えてその上に小本を載せ、眉を蹙めてさながら身を投出したやう、急に後に反回り、何を見るとも無く暫時壁を見詰めて居る、その眼が次第に方向を移して窓の方に向く途端、見れば…心付きませんでした、今まで。

窓の外の芝の上に横になッて窓の方を見て居るのは弓之助です。

「あら、いつの間に」。

口よりもむしろ美麗の眼色にての心が籠もッて居るやうです。　美麗が弓之助の方に眼を向けたのを見るや否や、弓之助も笑掛けました。　何心ないいろの笑顔、しかし美麗には何處か今は恐ろしいやうな笑顔…

來いと招く男の手眞似…考へれば今此部屋へ來られるより

れ一層まア勝手でそ。　うなづいて出やうとして、坐を立掛りましたら、しかし何ろ曰くハある例の白紙、その紙を其處へ置いて行くのも氣掛りです。　最近出版の音樂雜誌を一二冊携へて出る振をして手早くそれ紙をばカクシユ納めて、やうやくにはッと一息、無理に賣るといふやうな笑顔を見せて庭へ出掛けましる。

出て來る美麗の姿を弓之助は臥て居ながら眼で測量して居ましたが、しかし口から出したのハ美麗の姿にハ關係も無い却ッて意外な問です。

「唱歌つくッてゐらッしやッるンですか」。

「何時」。

心ユ暗がりをば十分持ッといふ返答。　けれど弓之助は氣も付かぬ体です。

「今」。

「あッ今……　えゝ、つまらないのを」。

「何と言ふンでそ。　以太利語？」

「いゝえ、佛語」

「文句は？

「まアだ」　すねたといふ風情です　「一句も出來ないンでそわ」。

「ぢや題ハ？」

「題？」

「えゝ」。

早速ふ答へられぬまゝくるしい繋ぎ。　いゝ塩梅、もッて來た音樂雜誌を出し

「この中ふあるの」。

「どれ」、　開いて見る目前へあらはれたのは Billet doux (艶書) と題した譜付の曲です。

「おや、ビエヅゥヴー　いゝ題だ」。

「それ…それですわ」。

「考がへて、さもく安からぬ体。………

「艶書と題して、それで」…

あゝ、あどけなさ…

「愛想づかしの…のを人にやッたらどうでしやうね」。

流行

流行物見本挿畫の解。

第一　東牡丹の櫛　この櫛は大して新らしい形でもあり

ませんが　しかし今なかく\よく行なはれて居ます。　バラフのが普通でそ。　蒔畫あるひは木のハ左程の人氣でもありません。

第二　かそがな形の櫛　これは一番鼈甲臺金蒔畫の物に人氣があります。　意氣といふ方の櫛です。　金蒔畫ハあッさりした方です。　混入ッたのハいけません。

第三　ひゞ入り小紋　ヒゞは黑、小紋も黑、しかし小紋は出來るぶけ細かい方が人柄です。　地も鼠ふしてヒゞを白で抜き、地にある小紋を黑で出しゝのはまた前のより一層見榮が有ります。　老人の方ふも若年の方にも通じて會ふ形ですが、しかし若年の方ハ些際立ッゝ帶、まゝは半襟、または長襦袢をあしらはなければいけません。

第四　三葉小紋　あれは眞無の三葉をつないだので主に下着の方に適しゝものでそ。　しかし、若年の人か、或は摸様が細かいか、それらあらば上着にしても差支ハありません小紋および三葉はいづれも鼠ぶ上品です。

第五　紫銅づくり鏑矢の簪。　鏑矢とは脚ふ繰込ぶ出來て居る處が一寸鏑矢に似て居るためです。　繰込が狹過ぎると毛ぶ引懸る憂いぶ有りまそゝら、この繰込ハなんでも廣い方

ぶよろしいのです。　つくりは全で紫銅のもあり、また富のやうふ銀と紫銅と種分けたのも面白いです。　金と繼いでもよろしいです。　もし、玉をつけるなら左の表のとほりで無くば見榮が有りません。

全で紫銅で出來て居る簪ふは、　水晶、ホルンブレンド、　電氣石、青玉石、紅玉石、黄玉石、綠玉石、草入水晶、紅水晶、蜻蜓玉、赤瑪瑙、白瑪瑙、金水晶、孔雀石などの玉、あるひハ青貝。

肩から上ぶ銀、下ぶ紫銅のにハ水晶、ホルンブレンド、電氣石、草入水晶、蜻蛉玉、烏石　黑瑪瑙白瑪瑙などの玉　あるひは青貝。

肩から上ぶ金、下ぶ紫銅のにハ水晶、ホルンブレンド　電氣石　草入水晶、蜻蛉玉　烏石　黑瑪瑙金水晶などの玉。

肩から下ぶ銀、上が紫銅の、または肩から下ぶ金上が紫銅の、この二ッふは前の全で紫銅で出來て居るものゝ取合ぶ適用されまそ。

第六　あれハ「つや」といふ名の人のモノグラムです。

第七　これは「こま」といふ名の人のモノグラムです。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

第八　これは「ちか」といふ名の人のモノグラムでそ。
第九　あれは「とみ」といふ名の人のモノグラムです。
第十　これは「よし」といふ名の人のモノグラムでそ。

頭巾に一つの新工夫(しんくふう)がありますがそれは次號に出します。

文藝美術

花少女(はなをとめ)　　美妙齋主人

名に　さへ　はなの　さをとめで、
　ゐざしの　うめは　ゆくすゑの
はるは　しるべ　と　いふぶすき、
　ゐけむに　かよふ　わゐみづの
みでらぬ　むねに　根をよせて
　ゐをるは　いつか、けふ、あしふ。
おぼろみ　かすむ　あかつきの
　ゆき　と　まがはゞ　とけ　も　せん、
かげ　くれまよふ　ひめがきの
　つき　と　みえなば　いざ　てらむ。
とくるも　てるも　あつかしき
　きみが　こゝろの　まゝの　さと、
もみぢの　かほ　と　たれ　か　いふ、
　きぬの　いろめは　うつれるを、
むかる　と　こそれ　みる　べけれ。
　おもへば　そゑも　たのもしき、
世を　わが　ための　けれひの　ま、
　いづもの　ほかに　かみも　なし。

新年　　佐々木弘綱

あまつひの　しるしの　みはふ　うちなびき、
　としたちふ　けり　やまと　國原。
おのづから　のどけき　けさの　まゝろ　かな、
　かすみそめつゝ　としは　たゝねど。
としでとに　かはらぬ　としの　たつ　なれど、
　あらたまりぬる　こゝち　こそ　あれ。

新年梅

第三巻 (八)

ゆたかなる としの さかえに うめの はな
は、ゑむ かほを みそめつる かな。

新年　　佐々木信綱

はねずして としの わかれを をしむ まに
あけぬ と つぐる やまがらす かな。

おきいで、 むかふ たらひの わかみづに
ちよの かげ こそ まづ うかび けれ。

あに と あく そら〳〵しきは あらたまの
とし たつ けふの こゝろ なり けり。

とし のみ か、 きのふに けふに ひきかへて
ひとの ことばも あらたまりぬる。

とし たちて ゐるは たゝねど とし たてば
こゝろは やがて はるごゝちして。

第十九號 (八)

新年梅　　佐々木光子

なに と なく うれしかるらん うめさへも
としの はじめに はゝゑみに けり。

をとめごら あそぶ のもとに にほふ なり、
としは はじめの うめの はつはな。

山路の冬といふことをある隠者のかきおくる　　やまだ美妙

くもを せく こゑなき かぜは うめくも
ふえを ふく つきに やまは しろし。
ふゆの よの あはれ かくて ふるき
やらで たふを 撫る しかの こゑ。

山路は冬といふことをある夫人にかきおくる。

はうらは ゆきに、 かへる つる。
たふまの つきに まつ くろし。
そびあの おゑど、 夜 とは あれ、
こゝにも はるぞ います なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

枕の草紙まなびがき

是から折々古文の中から面白い處を抜萃して俗文に譯し、かつ評を加へます。こゝに出しましたのは枕の草紙巻九、清少納言がはじめて宮に出た時の事を記した文です。いらつめ記者

みやにはじめてまゐりたるころ、ものかはづかしきことかず知らず、なみだもおちぬべければ、よるよるまゐりて三尺の御几帳のうしろにさふらふに。

譯　みやに始めて上がッた頃は何も角もはづかしいばかり、涙も落ちさうゆゑ、よるよる行ッて三尺の御几帳の後に居ると。

ゑなどとり出て見せさせ玉ふだに手もえさし出まじうわりなし。

譯　絵など取出して見せて下さッてさへ手を差出す事もならぬ程埒も無い。

これはとあり、かれはかゝりなどのたまはするに、たかつきにまゐりたるおほとのあぶらなれば髪のすぢなども中々ひるよりは顕証に見えてまばゆけれど、ねんじて見などす。

譯　これは斯う、あれは彼などゝ仰しやる處が、燈火も高杯にともしてある物ゆゑ、髪の筋なども却ッて晝よりはッきり見えて居るくせに、それで念じて、わざわざめかして絵を見などする。

以上合評　はじめて宮づかへする婦人の心のさま實に目に見るやうです。「まばゆけれど、ねんじて見などす」とはいはゆる神に入る筆、そづかしかる有様紙の上にあらはれて居ます。

いとつめたきころなれば、さしいださせ玉へる御手のわづかに見ゆるが、いみじう匂ひたる薄紅梅なるは限無くめでたしと見しらぬさとびごゝちにはいかゞはかゝる人こそ世におはしましけれとおどろかるまでぞまもりまいらする。

譯　ごく寒い頃ゆゑ、御指出なさる御手のすこししか見えないが、それが言ふに言はれぬ程美しい薄紅梅色である塩梅、まだ見馴れぬ田舎者の心には、さても非常に美事な、どうしてこンな人が世の中にゐらッしやるのだらうとゝ驚くまでは見詰め申す。

評　女子の第一の着目らしい處

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

あかつきには疾くなどいそがるゝ。かつらぎの神もしばしなどおほせらるゝを、いかですぢかひても御らんぜんとてふしたればみかうしもまゐらず。女官まゐりてこれはなたせたまへといふを女房きゝてはなつを、まてなどおほせらるればわらひてかへりぬ。

譯　夜が明ければ早く歸らうと氣が急く。かつらぎの神もしばし（葛城の神は夜のみ通ふ神。それ故清少納言が夜のみまゐッて晝歸るをその神によそへ「かつらぎの神、まて」と戯れる意）と仰やるので、どうかして偸んでも見たいと臥て仕舞ふゆゑ、御格子も明けず。女官は來てゝ御明けなさいと言ふので女房が明けさうにすると、宮が「あけるな、待て」と仰やる故、女官もをかしく笑ッて歸ッた。

評　女子どもに宮が御たはむれになる景色の實地。格子を明けるのを差止めるなどゝは實に面白いです。

柳櫻都錦繪　二幕目

立花屋かをる作

かをる曰く

序幕にありふれたる筋なれども二幕目よりは少しく佳境に入れいらつめ方も其のつもりで

本舞臺正面奥深ニ辨天祠の書割り上下程よき所丸物の馬埒よき所に開帳札を建て此後一面の浪布所々に櫻の立木切出しの朧月雲のかゝる仕掛け薄き風の音ニ浪の音を冠せ道具をさまると上手より仕出二人唄ひ乍ら傘を持て出來り

（〇）サッキはひどい降りだつたがもう月が出て來やがッた晝間は大層賑やかだが夜はサッパリ人が通らねヱナー（△）ソウヨ早く行て彼女に安心させョー（〇）ヘン極り言てやがるト捨臺詞有て下手に這入る後本鐘を打込み下坐の獨吟になり向より以前の正作シホ〳〵と出來り（正）イクラ思案を仕直してもどうで死なねばならぬ身の上……長の年月只一日も旦那樣の御氣に入らぬとが有ては主從の道に違ふと思ひ正直一方に勤むれば旦那樣も正作〳〵と他の衆より目を掛て下さる難有さ夫に先きの彼の始末ナニをめ〳〵と歸られよう幸い先きの大雨に水層まさる彼の池に身を沈むるが責めての言譯と獨吟二の句になり舞臺に來り（正）モシ旦那いかい御恩になりました不忠の罪も彼の世から御詫を致すで

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ムり升と此中終始獨吟にて小石を袂エ入れるとあど宜しく(正)嗚呼いつまで言ふても 反らぬと人目の無き內ソウヂヤと獨吟の切れエて池へ飛込まんとそる此時櫻の立木の蔭ふ様子を窺ふ以前の巡査伊東峯三出來り(峯)コリヤ待て(正)ヤ…貴方は御巡査様ドーゾ此の儘(峯)人命の貴重なるを知らんか…ハテマー僕の言ふとを聞けーと(峯)ハ捨石に腰を掛け(正)は下に居り合方替ツて(峯)見れば分別盛りの年輩じやがソリヤ死を決したるには深き仔細も有らふが…サヽこゝちや能々考て見よ死んだト思ふて何事でも爲したら出來ぬ事も無い筈…若し其方が死んだなら妻子が有ればば此れ等の嘆き又其の上ふ其の筋にも色々ゟ世話を掛る道理ぢや全体其の方の死を決したるハ如何ある譯ぢや(正)ハイ…難有其のゟ意見 私の身を投げまする仔細もしゟ役人様ゟ聽きなされて下さりませとシンミリとした合方ふあり(正)今日主人の用で支店から百五十圓を受け取り根岸に歸る途中ゟ驛前まで來かゝり升と石燈籠の蔭に十七八の生徒風の奇麗な娘が鼻緒をきらして困て居るのを見兼て麻をやれば其娘が私に何處かの使の歸りかと听き升故コレ〳〵トツイ話しましたら大ソレタ…其の金子を貸して呉れろと申

します故色々斷り歸りかけますとうるさく袂にすがりて頼のみ升れど主人の物故貸されぬと彼此爭ふ內女に似氣あき采配の一手其の儘そこへ倒れたきり暫時何やら知り升せぬか息を吹き返してみれば情あい金ハ殘らず取られて仕舞ひ且那様ふ面目なく夫れで死ぬ氣になりましたと涙ながら云ふ(峯)なる程正直の心より死を決したるは尤ぢやだが其の方の生命に比較それば僅か百五十圓且全の過ちで此れがホンの時の禍此の趣を主人に話したら別に咎めも致そまい一体主人と云ふは(正)へイ主人と申し升るは今度海防費のとにつき出京致し升る上州在の安田富三と申しまそ(峯)ンヽそりや群馬縣會議員で有名の豪商秋田富三…それあれば猶のと必ず短氣を愼まれよと手帳に記そとなど宜しくある(峯)何ろ手掛りでも有るかナ(正)ヘイこんあ物が跡に落て居り升たト以前の寫眞を出そ(峯)ハ之れを見て偖はと云ふこあし(峯)かゝる証據の有る上は當方に於て篤と詮義を致せバ障りの無い內早歸れ此の品は預り置けば必無分別は…ヨイか(正)ハイ色々と難有ムり升た左様ならゟ役人様ゟ別れ申すでムり升 アヽ死ぬなぞと云とはサッパリ思ひ切り升たと禮を云向へ這入」 あと(峯)ハ見送て清子の寫眞を

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

眺め（峯）不圖書より歸路手に入寫眞は日頃をより思ひ焦るゝ清子ハ姿ハテ美しいと櫻の立木による仕掛にて花を散し本鐘にてチツト思入此時切出しの月に雲をかけ見え忍こなし上手より仕出の醉僕義太夫をうたい乍ら出て（仕）コンナ殿御と添臥しの身は姫御前の果報ぞ」トあれにて一寸氣を替へ（峯）コリヤ〱（仕）ヘイと下に居る（峯）夜深に放歌は」と木の頭相あらんヅと此仕組宜しく幕。

寄書

女子の德育ハ宗敎に依るの外なきか　南野生

敎育の種類多きか中に最も一定の法則を立て難きものは德義上の敎育なり。惡事の惡事なるハ人皆之を知り善事の善事たるも人皆之を知る。善惡の區別の如きは其大体に於てハ上流の人士も下等社會の人も開明の民も未開の人民も差したる相異なしと謂て可なり。「パツクル」か社會の道德ハ進歩せさるものなりと說きたるは詳かに之を論すれば僻論たるを免れすと雖とも亦一應尤も議論ありと謂はさるを得す。故に德育に貴む所は善惡の區別を敎ゆるよりも寧ろ德義の感覺を養成するに在り。一事を爲すに當て其善事なるか惡事なるかを

識るに非されば其取捨を決すると能はさるハ固より辨を待たすと雖とも行爲の取捨を定むるは常に其善惡を識別するを以て足れりとせす必す惡と知てハ直に之を避け善と知てハ直に之に就の感覺無かるへからさるなり。世に德義上の罪を犯すもの多きは其惡なるを知らさるに依るに非すして只惡を嫌ふの情緒未た強からさるに坐するもの多し。故に德育の要は善惡正邪の別を敎ゆるに止まらすして併せて德義の感覺を發育し邪を避け正に就くの習慣を養成するに在るは蓋し疑を容る可からさるなり。

然らハ則ち德義の感覺を發育し邪を避け正に就くの習慣を養成するの具は何處に之を求む可きか。或は曰く宗敎なりと。夫れ宗敎は崇敬及恐怖の感情を以て不德の誘因に克つものなれは其德義上に實際の効力あるは疑を容れすと雖とも亦恐る可きの弊害なしとす可からす。蓋し宗敎にして其力の最も強きものは瞭然睹る可きの規則を一定し罪惡の應報及善良の結果を目前に指示するものなり。信心の更に一歩を進めて迷謬に近つくに從て宗敎は愈々其効力を増すものなり。故に宗敎は往々人心を束縛し其活動の範圍を縮少し人をして偏僻に陷らしむるの危險無き能はす、若し是等の危險無きの宗敎なら

めは普通の人に對しては其本心を束縛するの効力無かるへし。之を要するに德義上に實効あるの宗教は危險あるの宗教なり危險無きの宗教は德義上實効無きの宗教なり。殊に現今我國の如き一教の下に立たさるものに在ては宗教上の熱心は往々人の交際を害し人をして奇癖に陷らしむるの弊あり。余輩固より宗教を以て無用なりと爲すものに非す。宗教には自から其特有の目的あり。余輩は只社會の德義は擧て之を宗教に一任す可からす社會の德義も學術に基き道理に依る所の自由なる教育に依て之か進歩を圖らざるへからずと論するに過ぎざるなり。況んや余輩の論題たる感情は最も強く迷信の危險最も大なる婦人に於てをや。

德義上の教育は一は惡癖の發生を防くに在り而して一は感情を養成し及び智識を進捗するにあり。夫れ人の機能は久しく之を用ゐざるときは大に其力を減するものなり。腕を用うると少なければ腕力減し足を用ゆると少なければ脚力衰ふ是只体力のみ然るに非す智力と雖とも感情と雖とも一として皆然らさるは無し。一例を擧けて之を論せんに怒を發し易きは人の惡德なり。此惡癖を矯正せんとするの一法は之をして可成怒を發するの機會無からしむるに在り。之に反して人の怒を發するを快とし故らに之を激するか如きは益々其惡癖を長せしむるものなり。是只一例に過ぎすと雖とも其他の惡癖皆此の如し。故に惡癖を醫せんとするときは務めて他に注意を向く可きの業務を與ふるを良とす。小兒に在ては無害の遊戯を授け女子に在ては裁縫なり讀書なり音樂なり凡て注意を不德の事に向くるの機會無からしむ可し。閑居して不善を爲すは一般の常情なり。彼の女子をして常に相當の業務に從事せしむるは啻に此常情を制するとを得るのみならす。亦能く漸次に其心裡固着するの惡癖を除くの効あるべし。我國古來の女教に於て務めて敗德の原因に近かざらしむるも其中正を得たるや否は且らく措て論せす一は此理に基づくものなり。

德義は一の感情なり故に感情を養成するの德育に緊要なるは辨を待たずして明なり。而して感情を養成するの良法は歴史及傳記を讀ましむるに在り。人の機能は久しく之を用ゐざるに依て衰ふるとは余輩已に之を説けり。之に反して人の機能は屢々之を用ゆるときは必す大に其力を增すへし。故に歴史及傳記を讀して人の善行を見ては則ち之に感し惡行を見ては則ち之を惡む。之に感し之を惡むと屢々あれは善を喜び惡を惡むの情愈々強けれは自か

ら之を行ふに當ても善に就き惡を避くると愈々易きは理の當に然る可き所なり。其他音樂繪畫等の美術に心を用ゐしむるときは人の嗜好を高からしめ其性質は優美を増すを以て嫌ふ可きを嫌ひ喜ぶ可きを喜ぶの情益々鋭敏となり善惡邪正の判斷を助くるとなるべし。智識と德義の關係に關しては「スペンサー」氏は全く之を否とし智識を進歩して德義を養成せんとするものを以て其狂妄なると音樂を敎へて畫學の熟練を増さんとするものに讓らずと論せり。蓋し德義は感情にして智識と直接の關係なきは固よりなりと雖ども其間全く關係は存する無しと云ふに至ては亦極端の論と謂はざるを得ず善惡の大体に至ては愚人と雖ども能く之を辨ずべしと雖ども其細密なる點に至ては能く原因と結果とを比較するに非されば之を斷ず可からず。且つ一の行爲に伴ふ所の利害の輕重大小に至ては知識の力を借りて始めて之を辨ずるを得べし。知識は此の如く是非の判斷に缺く可からざるのみならず大に感情に影響するものなり。盲人蛇を恐れず猫子金を喜ばざるは知らざればなり。其他嗜好の如き名譽心の如き廉恥心の如き凡そ感情にして智識の影響を受けざるものなし。

故に德育は一は罪惡の機會を減し一は感情と智識を養成するに在り。余輩の論する所は固より一班に過ぎずと雖ども德育を擧て宗敎に一任せざるも學理に基きて德育の方法を立つるとを得るは余輩の固く信ずる所なり。

如何にして女子を敎育すべきや（前々號の續）

靜岡　竹　孃

前申上候通學校にて少しばかり論語の講釋を聞き候も別に德義を益する程の効力も無之到底西洋の如く家庭にて德育を授くるを良策と存候幼稚の頃に承り候孝女貞婦の話慈悲の物語などが今日孃等の德義心を養成いたし候ものにて二七の頃に論語や女大學をよむも當時の方々には別に益はなくして反て反動の念を起さしめ先代の婦女は卑屈なり妾等豈此の卑屈界に再び沈むべけんやとの奮發心を起さしめ候役に相立候位かと存候尤も智惠を得ますれば愚人とは異なりて惡事をなすとは少くは候はんが只だ智惠で邪慾を推し付け置くのみにて斷岸の松木同然實に危險のものに有之候故に德育は家庭にて授くべきものと斷定仕度候就ては如何にして之を授くべきやと申候に前申候孝女貞婦の話慈悲善根の德等　苟も淑德を涵養するの効ある話は物に書につきて聞しめ候は最も大切のことにて今一ツ大切と存候は行儀作法を躾け候とに御座候擧動

の野卑な者ハ心も野卑擧動の優美なる者ハ心も優美にてつまり心と動作は密接の關係あるものに御坐候故に心を優美ならしむると最も肝心と存候孃常に思ひ候にハ先代の婦人の淑德に富みたるハ行儀のしつけ方のよろしかりしが一の原因かと存候然るに當時の方々は兎角行儀は卑屈の遺習とかと被仰候由に候得共餘程の勘考違と存候つまり淑德は婦人の一日もなかるべからざるものに有之候が此の淑德を具ふると具へざるとは婦人の心掛にも有之候得共重に其父母の監督の如何によるものに御坐候得共瑕なき阿孃を世の胡盧となされざらんを孃の希望致候處に御坐候記者樣方にハ是れに付き御明案も有之べくと存候故十分に御教示被下度候

さて智育のとにつきまして當今我國にても別に一定の主義も無之只時好に投じて教科を授くるのみの由にて女子には是く々を學ばしむへし淑女たるには是々を缺くべからずとハ人の云ひたるを聞き不申候抑も教育の本旨ハ天賦の才能を發達するに有之候得共女子の教育も女子に天賦の能を發達さするに有之は申までもなき事に御坐候去れども孃は當今女子に授くるものを一々評せんとには無之兎にも角にも一言を以て申せば女子の教育も以前より進步したるは疑もなきとにて眞に賀すべき次第に有之候共得智育に傾きて德育及び宗教の務を務蔑せしめたるハ覆ふべからざる事實と存候當今交際場裡に其名も高き陰となく影となく上流社會下流社會の區別なく恰も古代希臘の女神の如く尊崇愛慕さるゝ方々を見奉るに愛敬は頗に溢ふるゝばかり英語も英人の如く自由に其才能は幾何學なり代數なり勞せずして其答を得樂譜の如き一見よく之を奏するを得家政學の如きは奴婢天保女房の務として少しも省みず然るに十年以前は割烹裁縫の道を知らざれば淑女にハ無之藝人にて有之たるに當時の方々は英語算術音樂の學にのみ心を込められて母君や奴婢のなす家内の業務は高等の學科を修むるものゝなすべからざるものとし父母の擧げ足をとり(マサカ)其孝心よりして其無學を微笑の中に諭し若しも料理の事を委せんとすれば貴重の光陰徒費すべからず其目的で雇へる下女に命ずべしと云はるゝ方當地などにハ有之よし故貴地には澤山有之べくと存候

さりながら女の女たるは女たるの德ある故に有之候故如何なる學業とても此の德を輕めべき次第ハ無之益々修學して益々其德を發達すべき譯かと存候抑も女德とはシトヤカとナサケフカキと正直の三なり此の三ハ常に共に働らきて一家の幸

福を來たし子となりては父子兄弟の調和を圖り妻となりては夫を助け子を喩し父母舅姑を樂ましむる皆な此德より來るものに御坐候

雜纂

少婦の爲め　　司馬絢子

第一　男子は其才力の如何にて此困難社會にても己か生活の道を講ひ随意に己か意に適へる婦人を娶り其伴侶と爲すを得れども少婦は然らず其能力にて己の運を定むること極めて稀にして多くは默して時機を待つものなり又稀にも生涯の苦樂を共にする好仇を擇ぶことあれども多くは男子より撰取せらるゝものなり

第二　不羈獨立して他に倚らず自ら衣食するの方法無きにはあらねども天性柔軟ものなれば男子と肩を比べて驅逐するに堪ゆること難きが故に到底其衣食生活の事にては勢他に依頼ざるを得ず

第三　故に幼より身を謹み他日己が願ひの位置に目を注ぎ身邊に日常堅固の二字を着けて如何なる不幸に遭遇すとも巧に之を堪へ忍び他日大幸福を享くるに適ふ樣に準備へよかし而して其目的を遂ぐるの方法は種々あるも先つ幾多の酸辛を嘗むるも決して全く失望の境界に陥らざる樣注意すべし

第四　此の如くして後に婦妻となり家母となること容易なれば其嫁せざるの前眞正の幸福の得るなれば已に幼稚の時よりも心に深く之を銘して愈深く之を求よかし

第五　少婦よ汝の心情を清潔にせよかし清潔は只女子第一の裝飾なるのみならず又人間最上の寶玉なれば醜婦も是にて佳人となり此を放ては佳人も醜婦となりぬべし

第六　汝をして罪を爲さしむるなかれ無罪は少婦最上の裝飾と婦德の基礎なり故に德ある婦人は暴人も之を尊び野夫も之を敬す若其道を失へは社會の外に逐はるべし

第七　汝の態度容貌は年と共に瘦衰ふるも汝が品位を貴べかし斯の如くにして汝が嫋娜婀艶たる風致を老年迄も保つことを得ればなり

第八　汝の無罪を襲ふ所の危難とは如何なる者かを習得し之を防ぐに廉恥美德謙讓の三その武器を以てすべし

第九　恥なき會場に出入する勿れ第三の人をして聞かしめ

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

ば己先つ赤面せさるを得さるか如き談話を爲す勿れ

第十　虚飾を専にする勿れ時風ハ年々移れとも美徳は不朽の装飾なり

第十一　汝自らに對して恥を知れ心に不正の念を生したる時は眞正至当の考案にて之を驅逐すべし如此妄念の胸に浮ひぬるは是れぞ己が汚穢の路に近つきたるの影像なりと悟知よかし

第十二　汝の思想をして清潔ならしむべし家族的の幸福を增すに多く益せざるの學藝を務むる勿れ

第十三　汝は將來智識及び經驗に富みたる怜悧なる育兒者たるの候補者なり故に初より其位置を占て之を辱むる勿れ熟慮怜悧豫見堪忍の四ツぞ汝が他日の楷梯なる

第十四　汝が敏活なる言語と靜粛なる動作は優美高尚なる心術とに依りて家族的生活の安寧和睦幸福を生ず若し之に缺かは眞に家族的生活と名くべからざるなり

第十五　汝が統御する範圍に於て汝は何處までも快樂秩序清潔一致平和の情を擴張せよ

第十六　婦妻とありては良人の喜憂苦樂を共にする義務者なれ故に良人の外に在て勞苦するの精神を慰め之を清爽にするべし

第十七　汝一度家母とありぬれば小兒の思想其他精神の發達上に最も大なる影響を與ふる者なり家婦となりては其良人に溫愛其兒に愛憐其家族に寛遇其他知己交際の人々には溫厚篤敬の四字を以てし衆望をして己が身に蝟集せしむべし

第十八　汝の職務ハ大なり少婦よ汝の職務を辱しめず當世の女流にて多く得がたき者となれ

第十九　汝は優美高尚なる心術に脩むると同時に其娘たり姉妹たり婦妻たり家族たるに關せず己れの家族中の間隙を防ぎ親睦平和を生せしめ仁愛憐憫をして發芽せしめんとを務むべし

第二十　汝の力にて改め難きものハ能く之を耐忍せよ汝の恐嚇は人之を恐れず汝の忠告は人之を欲せず汝の反言汝の固執汝の憤怒は恰も火中に油を注ぐが如し

第廿一　是れに反して汝の溫厚は遂に憤怒を止め汝の靜粛ハ遂に頑固なる汝をして感動せしめ汝の柔順汝の可憐と愛敬は汝をして半ば失ひたる心を再び収得せしむ

第廿二　汝の兩親れ弱点を見る勿れ汝の兄弟姉妹に缺くる所

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

あらば之を訓示すべし汝自身の外決して外に對して嚴格なることなかれ

第廿三　汝は心情の奴隷となる勿れ常に清爽且つ親和なる心を有し汝自制し汝をして感情の統御者たらしむべし

第廿四　疎暴野卑なる心情を起し或は數々感情を變換する等は婦人に最も愼むべき事なるを記臆せよ

第廿五　上の爲す處下亦之に倣ふを以て汝は早朝より深夜に至る迄能く勉強し他の模範となるべし

第廿六　儉約の二字を守れ良人は勤勉に因て財寶を收得し婦人は儉約に依て之を貯ふ而て貧人に慈善を施せば人生最も愉快のことなるを知れ

第廿七　之を要するに婦妻となりては良人の缺くべからざる伴侶となることを務むべし夫の女子が終身不幸の境界に沈淪するものも良人の缺くべからざる伴侶となるに足らざればなり故に汝の學問汝の心術すべて此目的に向て鍛錬すべし

第廿八　信神心なき婦人は實に開明なる人に伍すべからざる者なることを知れ又宗教の上にても汝は汝の家族汝の朋友の模範となれよかし

織物見本帳を製する事

先年日本の紳士某が歐洲官遊の折佛國巴黎府に於て或家に請ぜられ日本古代よりの裂の見本帳を見たさうですが其蒐集の行屆きたるが海外萬里の外にありて日本織物の見本を作るとは色々商賣上の目的ありてのことでありましやうが其好の面白き其骨折の容易ならざりしとは誠に感心すべきことであると其頃の新聞に見えましたが西洋人は中々敏捷ですから日本は美術國と聞いたならば日本人の知らない内に立派に美術品を蒐集し其沿革歷史をも調べたとは是迄往々あつたことで肝腎な本家本元の人が其蒐集物を見又其調べた沿革史などを讀んで吃驚するは常のことです、西洋人が斯く暇と勞と財とを費して斯樣な調べをするのは商賣人ならば夫々得意先の好尚を知て交易上に利益を博せんとするか爲で學者ならば世界文明の發達を知るの資料となすのでしやう。斯樣に些細な織物裂の見本帳位でも使ふ樣によりては大した功用をなすものです。商人は商賣上に應用し學者は學問上の參考といたしますそこで記者は此織物見本がいらつ光の方々には何樣功用をなすだらうかと考へて見ましたが中々色々利益のあるものでそ、先

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

づ其利益を申す前に其製へ方に付きて申さば此織物の見本は色々に出來ます。木綿縞帳更紗帳小紋帳絹帳錦地帳紋帳假帳面を出來び置き裁物をする毎に其切端を夫々帳面へ帖付け若し其時分に流行ものあらば其側に帖付けたる年月を書入れ置くのです。これをなすも自分のものばかりでは其數も少うムいますから女學校などにてはお友達中で交換をするのですそうすると隨分見事な見本帳ができます。かやうな方法で見本帳を製へる事は學校に居る間は中々樂みなものでこれが後日に至りては一寸得難き重寶な道具となります。新しき衣を仕立てるときの相談對手ともなり母親が娘達に織物類の名稱等を教ふる教科書ともなり殊に機織を心掛ける婦人方には意匠を助くる屈竟の下婢ともなりませう。如何です唯今裁縫お稽古中のいらつめの方々お友達衆申合して行つてご覧なされては。此万事新なる新年の始業が

アンモニアの効用

石鹼を溶かした湯凡六合ほどの中へ猪口の四分の一ほどのアンモニアを入れ、之に汚れた布をしばらく漬けて置けばそのまゝ汚目は奇麗に落ちます。窓のガラスや鏡を洗ふにも之で洗へば至極よく曇りを落し、水にそてしばらく滴らせてその水で肌を洗へば臭氣も汚も忽ち去ります。之を交せた湯に入れば非常によく肌を奇麗にし、また同じくその湯で髮を洗へばフケは去つて跡をも止めません。

黄金と玻璃

黄金は貴いもの、玻璃は廉いもの。しかし、美くしさは何の優劣もありません。黄金で無いからといッて玻璃を責め、また貴いからといッて黄金を美くしいものと思ふのは間違ッたはなしでそ。「美くしさ」といふ眞の美くしさ、それには決して王公貴人乃至裏店の區別は無いのでそ。如何にも紅白粉をよそほふた令嬢と垢に塗れた賤婦、その表向の色彩はちがひます。しかし、笑顔はどちらも笑顔です。たゞ一莖の草、とりわけて見れば何でもありません。しかし風におだてられて土堤でそれが點頭いて居るありさまは事に因と花壇の保護を受て活氣を他に賴む牡丹にもまさりまする

悲しいことには吾儕の眼は、その道理をば知ッて居ても、それで其處までの觀念をたやすく得ることが出來ません。均しく同じな酒をガラスのコップと黄金のコップとに盛り、さ

て人に向つて何方を好くのと言へば、些少の至人、眞正の美術家を除くの外は、大抵の人も黄金の方へ取つてかゝりますが、之を理から問ふて御覽なさい、配合」といふものは黄金の酒とガラスの酒と、その何方に甘く出來て居ましやうか。銀の皿に水銀を盛り、錫の器に糞を入れる、それも同じな道理です。　黄金と玻璃、どうか眞實に、心から、後の玻璃を好みたくなりたいものです。

極微の世界

もつともよく磨いてある小刀の刄で、之を顯微鏡に照らして見れば高低が有り、破隙が有り、實に不規則な、不手際な物に見えます。　顯微鏡で見れば英國女皇の精巧な針も鉄棒と大した相違はありません。　しかし、蜂や蚊の針に就て之を見ればその美くしさは言語の外です。　人間の神經はあれとはり細かいもの、それて皆條の集まりから成つて居て、今の筋を分けて見てもやはり筋、つひに際限はありません。

宇宙の事は措いて問はず、その細かい處だけでも恐ろしい 自然 の腕の洪大なのも見えます。

態度も品行の影

態度も品行の影です。が品行の形が明亮であれば態度もまた明亮です。　如何に包んでも包切れぬものは偶然の態度です。　本の品行にわるい處が有ればおのづからその色は一寸の處に外にあらはれるものです。　脂粉も之をば塗匿せません。　美衣も之をば掩へません。

理財の失策

節儉して浪費を省くのは至極結構です、　しかし、よく言ふこと、その節儉を押進めてシャイロックを作るのは無理不條理のはなしです。　此頃雜誌や何か盛に世に行はれるやうになッて居て、それでわざ〳〵身を古代に置く氣か、それを買ッて子に讀ませるものゝ少なさ、　見聞の狹い子をあしらへるのは父母の義務ではありますまい。

女學校の近邊に男子の下宿屋

地方は兎に角、この頃府下に女學校の多くなること、誠に夕暮に促される星のやうです。　が、しかしそれら女學校の近邊によく男子の下宿屋が有ッて、それで　否、跡は言ひま

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

もまい…兎に角あまり好ましくも無いことです。　さればとてその下宿屋を取除けることは出來ぞ、また女學校を閑地に移らせることも容易に出來ず、實に困ッたものです。　何處か聞洩らしましたが、ある女學校の生徒は蝙蝠傘が全く入用でも無いときにもそれを故さらに携さへて出て行くとか。　思遣ればそれらの女生徒諸君のために氣の毒の限でぞ。　噫。

まよひ

女子が男子とはじめて交際をるときにハまだその男子がいゝと思ふもので無く、むしろ氣味が惡いでぞ。　しかし、今の交際が二度と重なり、三度を積むにしたがひ、前の氣味わるさも消えてやがてまづその男子の美くしい點だけ見付かります。　今の男子が品行ハ正しいが學問が無い、それを學問の方をば見ず、かへッて今の處その女子の目からは品行の正しい處をのみ取上げます。　さう思へば自然その男子がよく思はれて來る、よく思はれて來ればいよ〳〵痘痕も笑凹です。これて倉卒に婚禮とある、今の當坐ハ美くしい、たのしい、生活があります。　が、もと〳〵勝手ない〻處だけを拾つて集まつた夫婦です。　やがて疵の多く目に附きます。　それを

否だと思ふ、それと同時に前いゝと思つた處までがおのづから光に薄くします。　つひ、それゆゑ、夫まで面白くなくなる、夫に必要な妻だと思ハれなくなる、そこで夫ハ夜遊をはじめる、さてまた、さうすると妻が惡くなる、妻もまた夫を好ましくなくなる。その結局が春の屋主人の『細君』の結局となります。　これハ女子ばかりでも有りません。　妙齡のものは男子も女子も同樣です。　ことに言ハたのは女子から持出した場合です。しかし、男子から持出すのもまた多くあります。いや、女子のより却つて多いです。

詩人タッソの美談

タッソの才を羨み、美を妬み、またその譽をにくむものが度々タッソの詩の惡評をしたり、品行に根の無いことを添へそしてタッソの名譽を毀けやうと騷ぎました。　タッソの親友はくやしがつてタッソに辨護をしろと勸めました。　が、タッソハつや〳〵承諾しません。　承諾せぞ斯う言ひました。あれの財産を奪つてやるのも容易い。が、それハ望まない。あれの命をとつてやるのも容易い。が、それも望まない。　あれの名譽を毀けてやるのも容易い。が、それも望まない。　たゞし望ましいことがひとつある、　それは外でも無い、われ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

が私に惡意を抱く、その惡意を去つてもらひたい。

屹として動せぬ度量、さすがは稀世の才子です、また稀世の君子です。 だれもこの心は持ちたいものです。

節儉はすでに收入と同じ物。

高尚潔白な人に限り、眞正の愛を知り、また眞正の美を心得ます　正しく妻を愛し、子を愛し、また之を美くしく思ひ、決して移らぬのはそもそも高尚潔白の人に限るのです。

肉を置忘れて猫がその肉を偸んで食へば俗人はその猫を打懲らします。 しかし、「自然」はその人を却つて冥々の内に叱ります。 猫の苦痛を減らします。 猫が偸んだのは猫の身に取つては決して偸んだのではありません。 置忘れたのがわるいのです。

たのしいホームを持つ秘傳は、蝶が猫に追はれるのを見て、たちまちその蝶をあはれみ、それで猫をにくまぬその心を用ひればいゝのです。 わたくしは親友嵯峨のやの君「初戀」を見て不圖かう思付きました。

言文一致体　雜誌

世界の全圖を廣げて見ますと殘念ながら日本は指頭で隱れる位少い癖に陸の奥の人と薩摩の端の人と突合せては言語が通せぬといふ位よ言語に轉訛が澤山ありますそれは無理もありません此の位狹い國でも御維新前までは三百藩に分ちて各藩其境を守りて天然の境の山はモッソト險しければよい河はモット廣ければよいと思つた位ですから他藩との付合といふとも至て稀です、そこで藩々に國訛といふものが出來たのです。 が維新の後は關所は廢せられ道路に當る山は切開られ是迄徒渉又渡舩にて用を足せし河々も今は橋を架するとかあり飛脚は郵便となり賣舩は蒸氣船となり電信は出來鐵道は出來て交通の不便は皆なくなりましたから國訛といふものがなくなりそうなものですが中々左樣は參りません。 今日東海道を旅行なされても一九が膝栗毛に書きました詞と差違は一向ありません。 近頃岡山縣の佐久間舜一郎と申す人が内地を巡遊し地方訛の多きより東北地方及び山陰にては一種の地方教育を布かねばならぬ即ち小學教科の中に語學の一科を置かされは日本普通の言語が通せざる程なりと歸國して教育會で話したと聞きましたが仝氏の例に引きたるを見るに「出雲人

は他邦の人と接する間にイ、エの間違多くいとをえといゑをえぬといひしをス、ウをチと訛りうまをま、うしをしといひ最も可笑しきはすゝめをしゞめといふ故しゞめ(蜆)のとは何といふかと思へばすゞめといふなり又すし(鮓)をしゝといひ秋田にては之をすゝといふ、鮓屋の看板にそそゝとあり又た金澤地方にても學校の生徒が教師に質問するにあそきやー(これは何といふ意)といひ教師も之を聞きて失敬とも思はす生徒は勿論何とも思はぬ委細かまはぬこりきやーくといひ又どこ(何處)をどつきやーといふ秋田は言語の差異甚しくしとすと問違ひて梨をなすといひ茄を呉れといへは梨を出し茄のとはなしびといふ學校にて作文を爲さしむるに酒を飲むに行く馬に乘るに行く」と書き之を改める能はす又壹岐對島を假名にて書かせばえけちしまと書き烟草を一吹お吸ひなさいといふを一吸ふきあがせといひマーは這入りといふをあべしヤといひ又語尾にヨといふ音を附加へ茶碗ヨ土瓶ヨ溫飩の粉ヨといひ男子をわらし女子をめらしといふあり實に廣い日本一般の有樣を見れば教育は其地方に適する學科を設けねはならぬといふ感か起ると申しましたが記者も至極同感です。前にも申しました通り交通の便は次第に開け行く〳〵は隅から

隅まで網を張つた如くに鉄道が架る國訛も自然と消えて一つ詞となりましやうが是は五十年も百年も後のとでしよう。左様いふとは俟ても居れませんから何とか方法を立てゝ詞を一つにする工夫をせねばなりません。行く先一つにならうといふ詞は大抵唯今は東京語のやうなものであらうといふとは誰も疑はぬとです。そして東京に行はれ居る俗語は不規則なやうですが規則もチヤンと備つて動詞の活用は申すまでもなく尊卑の使ひ分けも出來る隨分發達したものです。そこで日本國中の詞を一にするには東京語で書いた書物或は雜誌新聞紙を廣く日本中に行渡らせるのが捷徑かと考へます。先づ言文一致体で書いた小說東京諸繪入新聞は雜報又言文一致一天張のいらつめ(我田へ水を引くやうですが仕方がない)のやうなものを讀ませたいものです。も一ツ方法かありますがそれは東京語の會話書を編纂して一般の小學校に用ふるのです尤も此會話書は俗語中にても中等社會以上の詞を用ひ文法を正して書いたものに限ります。そうしてあれは地方の學校に於て必要なばかりでなく都會の學校にては斯くありたきものです。東京の子供でも打捨てゝおきましては丁寧なる詞の使ひ方を覺えず兎角ベランメー、コンチクセウなどぞんざいな詞

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

かりを覺え雜談に　チヤラクラ饒舌れどもさて儀式張つた處では挨拶の仕方もしらず唯赤い顔をしてお辭儀ばかりして居るのはよく見ることです。これが學校で行はれる場合に至らぬならば家庭で行ひたいものです。

近刊批評

新刊著作一口評

浮世の巷　岡野碩氏著。金港堂出版。意譯と言ッて原著者の苦心した句を殺して仕舞ふ飜譯物に比すれば天地の相違が有ります。

もしや草紙　著者は言はずとも知れる櫻癡居士です。この書は小說といふよりもむしろ他の小說家の材料といふべき物です。專門の小說家は英國人。そしてもしや草紙は佛國人。もしや草紙が集めた種は專門の小說家が材料に取ります。しかし、もしや草紙は小說の仲間入は出來ず、佛國人は計畫の功勞を英國人に取られるのです。

華胥の夢　地が馬琴風に國民の友の筆鋒を交せる體の文で、そして言葉は春水の面影です。幼稚な神仙譚話、是を人が喜ぶやうではまだまだ日本の文學は……　著者は槐堂仙史。

中原の鹿　何が主人公やら些しも解らず。實を寫して實を失なッて居る言葉の文體。無論地の文にも取る處は無い。近頃のベル子を寫しそこなッた寫眞畵です。著者は淡[illegible]史

めぐりあひ　厭ふ人には厭はせて置くがいゝ飜譯。譯者の苦心を考へぬ人と共に語るに足りません。譯者は二葉亭四迷氏

初戀　作者は嵯峨のや氏。近頃の傑作　。ちと力の弱い文もあります。しかし、兎に角趣向は拔群。

因果　因と果との書分け。上下二回ではまだ物足らぬ心持がします。女生徒の贈答は千金の價値。結末と上篇とはちと……

（以上五種都の花）

蓮葉娘　罪の無い趣向、一寸見ると十五六できりゝとした美しい乙女が作つた物のやうです。著者は饗庭篁村氏

轉宅綺談　著者は前田健次郎氏。決して小說とは言へぬ作物。しかし、千金の文章。これをもし小說といふ人が有るならその人の氣は痲痺です。

月雲洞面鏡　取るに足らぬ燒直し。燒けの鏡は如何にもねエ。燒直した人は採菊散人。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

夢府叛亂　波の静の中にス子て奇景を求めやうといふ筆勢です。　譯者は塚原蓼州氏

ふたおもて　大和にしきにある柳浪子といふ人の作。まだ筆は初心ながら想像は中々富んで居ます。（以上四種小説萃錦）

新小説　まだよくは見ませんから評は次號に譲りますが、しろしの翠氏の朧月夜は歴巻の作となりさうに見えます。

細君　春のや主人の作。　平易ながら形容の中々ある文章。美事な結末。春のや主人近頃の傑作。　たゞし主人公は阿園ですか、細君ですか。　まゝ時に無駄な事實も無くはありませんが、何しろ惡くは無い作。

ユーベル　思軒居士の譯。　曲の無い評ながら隨見録より上出來です。（以上二種國民の友）

以上大抵評者が交際する諸君の作ばかりで、心安いまゝの妄評です。あしからず……

さて最後の御披露は美妙齋主人の

ぬれごろも　及び　蝴蝶

これは評しません。

但し次號には不知庵主人のその批評を載せます。

通信問答

ともゑ女史へ　（一）はじめて鐵漿をつけた人は誰ですか、また何時の時代からつけはじめたか、それは何の書を見ても、たしかに知れませんが、しかし和名抄にも「ハグロメ」といふことが載ッて居るからには何うしても今日から千年の以前から日本で用ゐて居たものといふ事だけは確です。（二）御尋のおもふき、今の「ぬれがらす」のやうな類で歯の早く染まる物は昔から無くもなく、それをば懐中御歯黒又は藥屋御歯黒といひ、早く染まッてまた早く剝げるものですが、兎に角歯を染めるのは有害です。（三）薄い眉を濃くするには多く幾度も剃ることですが、それでは常節が困ります。どうも是ぞと言つてたしかに成功する法は有りません。（四）手足などの筋が引釣るとはどういふやうに引釣るのですか。リウマチスの引釣ですか、癇の引釣りですか。ふたゝび御答へ下さい（四）歯痛にはケレオソート液が一番よろしいです。劇藥ですが醫者から御貰ひなさるとも、またケレオソート液と言ッて賣藥になつて居るのがある、それを御用ひなさるとも、どちらでも宜しいです。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なか子さまへ　洋食の時、パンは決して肉針でおさへたり、あるひはナイフで切るものでは有りません。　パンに限ッては指で千切り、それからバタを塗るのが本式です。

大西令嬢へ　（一）御兩親か、または確な御親戚の面前で無くてはそのやうな若い男の人と御會話を爲さらぬ方がよろしいでせう。（二）秘密におくられた贈物はたとひ先方が老人でも默ッて御受けなさる法はありません。　御兩親か御親戚に被露なされても苦しくは有りません。（三）名刺をば矢鱈に人にやるものでは有りません、よく／＼見計らつてからのことです。

田島令嬢へ　御尋の趣、記者の眼では男帯を淑女が御緊めなさるのは感心しません。

渡邊わか子さまへ　シヤツ、腰巻、または足袋などを簡單に、そして廉價に洗ふには洗濯曹達を水に溶かし、その水で御洗ひなさるのが一番です。　洗濯曹達は非常にやすいものです。　また西洋で一家八九人のもの、中以上なれば洗濯屋へやつて物を洗はせますが、その以下では全く家で曹達を用ゐて洗ふのが多いです。

美艶女史へ　（一）御たづねでは有りますが、早速に肌の色を白くするといふ法はありません。　強ひて御望みなら確な開業醫に頼んで砒石を貰つて御服用なさい。　これは分量から何から危險に過ぎますから御傳授は出來ません。（二）杜松子の實から杜松子精を取る手輕な法は知りません。（三）レモン液、薔薇液の製造法御尋でせうが、レモンは兎に角、薔薇などは迚も日本にある物で碌な液は取れるものでありません。もし御入用ならば藥屋から御買ひなさる方が餘程利方でせう。

錦浦亭恒子さまへ　（一）（二）、この二箇條は素人にはよく出來ません。（三）それは存じません。（四）手輕の油拔法と仰るその油は石油ですか、燈油ですか。　石油なら、遠火に炙れば烟が出て拔けませう（炭火に炙るのです）。　燈油ならそれは油の付いた處に土器を粉にして厚く蓋ひ、密封して一二日過ぐさせるか、或は毛を燒く灰で蓋ッて置くのもいゝといふ事です。（四）髮の毛をやはらかにする法は硼砂で洗ふのが一番です。

松本かよ子さまへ　いらつめ第十六號にあつた髮垢を去る法好結果があつたとの趣、ありがたうございます。（一）硼砂半オンス、龍腦一オンスを熱湯一合に溶かしたものを幾度に用ゐるとの御たづね、それは一度洗ッて更に髮垢のわく時ま

で用ゐるぞ、そのやうにして遣へば宜しいのです。（二）龍腦またはは樟腦の臭氣を消す方はありませんが、あれは直に蒸發して消えるものです。（三）仰のとほりこの髪垢あらひ藥ハ密封して貯へて瓶に入れて置けば決して腐れません。が、湯にてしらへる水は清水に限ります（四）この綱で洗ふにハまづ木棉切が一番よろしいのです。麻でも、フラ子ルでそ、リンチンでも、まゝスポンヂでも宜しいですが、しかし麻は纎維がすこし硬く、フラ子ルは毛が拔けますからまづ二等ですスポンヂ或はリンチンあらば木綿のかはりに用ゐても結構です。（五）右藥で髪垢を洗落とした跡ハ清水で洗ふのが一番です。

田舍娘さまへ　（一）カルヽス泉鹽は服用しても母にも乳にもまた小兒にも害はありません。（二）生れて一ケ年以内の小兒で大便の違いのハ打棄てゝ置いてハいけません。たしかな醫者に御掛けなさい。（三）顔にあるシミとハ何のシミですか痣でそろ、腫物の痕ですか。ふたゝび御答へ下さい。（四）第十六號に見えた頭痛持の人はよぞフケが出るものでぞ。髪垢を洗ふ法でフケを御除きあさつて行く内にハ次第に頭痛ハ減るものでぞ。それでなゑての頭痛あらば、まづ治りません。（五）剛い髪毛を柔にする法はいらつめ第十三號髪毛を保存させる法とある、それ法で大抵よろしいです。即ち、橄欖油一オンスの中へ蠶豆ほどれ大きさの蜜蠟を鎔かし込みそれへ薔薇油を一二滴落としたもの、あの油を塗るのです適宜に。

歳末のそくはらひの時御通信の御手紙をいくらか紛失させたやうに思ゑれます。もし何あら、はあはだ恐縮の至りでそら、ふたゝび御尋下さい。いらつめ記者

月報

○宮城御移轉の御摸樣　去る十一日は豫て仰出されたる如く聖上　皇后兩陛下宮城御移轉の當日なり今其の御摸樣を記し奉らんに午前十時と申そに　皇帝陛下は御軍服皇后陛下ハ御洋裝にて御出門遊ばさる眞先に警視一名御道筋を拂ふ續て警部及び近衛騎兵列を正して前驅し奉る　皇帝陛下には德大寺侍從長　皇后陛下には柳原典侍御陪乘す御左右には侍從騎馬にて扈從し續て女官次に一品有栖川宮、二品小松宮、二品山階宮、三品有栖川宮、三條内大臣、黒田總理大臣、伊藤樞密院議長、大隈、西鄕、山田、松方、大山、森、榎本、土方の各大臣吉井宮内次官、寺島樞密院副議長、各顧問官、香川皇后大夫、鍋島式部長官、兒玉大膳大夫其他宮内省書記官、侍從、侍醫等馬車にて供奉し奉り假皇居より左へ堀端通四ツ谷門を入り麹

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

町通半藏門外右へ堀端通三宅坂を下り左へ櫻田門　鳳輦鸞輿を轢らせ玉へり宮内省通用門より堀端通り四谷門に至るの間は東側堀端に沿ふて麻布、赤坂、青山、牛込、小石川の各小學校生徒整列し西側華族女學校の前には同校の生徒一列其他公私立小學校生徒數多整列して御行列の前驅其の前に達するを合圖に順を逐ふて君が代の唱歌を謳ひ兩陛下の萬歳を祝し奉る四ッ谷門より半藏門外まてハ番町麹町兩小學校の生徒を始めとし各小學校の生徒教師の號令に應じて禮式を行ひ君ヶ代一回を奏し奉る半藏門より櫻田門までは道路の左右に京橋日本橋淺草の各小學校の生徒整列し同じく君ヶ代の唱歌を奏す扨宮城正門前には近衛歩兵七大隊砲兵一聯隊騎兵一大隊工兵一中隊各正服を着して左右數列に居並び近衛樂隊及式部樂隊は君ヶ代一回を吹奏して御行列を迎へ又二重橋外にてハ御用煙火師鍵屋が煙火數十本を打上げ陛下の萬歳を祝し奉る斯くて十時五十分兩陛下にハ龍顏麗はしく正門内に進ませられ着御の上一端御座所へ御入在せ給ひ暫く御休憩の後ち鳳凰の間へ出御各親王殿下を始め各大臣親任官以下供奉の輩并に奉迎の公爵、勅任官麝香間祗候及び侯爵以下の華族等へ拜謁仰付られ畢て御祝酒立食を賜はりたり此日晴明蒼天蓋の如く風枝を動かさゞる市中にてハ國旗を掲げて祝意を表し老も幼も拜觀を爲るとて御道筋に詰め掛け群集雜沓人の山を築き脱帽敬禮して萬歳を祝し奉れり特に麹町區の如きハ區長初め議員有志者の重立たるが區役所に整列し恭しく鳳輦を拜し奉り其他孰れも聖德を頌歌し來往各千代万々歳の壽を申上げざるハあらざりき

○皇后陛下の御仁慈　皇后陛下は曩きに大學病院の患者に衣服を下賜はりしが尚は又東京慈恵醫院に本月より御思召を以て御手許より月々金若干圓を下賜あり一層救濟の道を普及せしむべしとの御沙汰あらせられたる由なるが日本赤十字社病院へも舊冬冬服男女子供分等取交十二枚下賜りたる由に承る吾人は慈仁無究の天恩を肝銘すべき者なり

○新宮城御間の各稱　今度落成になりし宮城各殿の中御改稱あらせたる重なる御間の名稱は左の如くなりと承はる

	舊稱
正殿	謁見所
鳳凰間	内謁見所
豐明殿	饗燕の間
御座所	御學問所
奥御座所	常御殿
皇后宮御座所	皇后宮御殿
藤の間	皇太后宮御休所
胡蝶の間	同御次

○二十二年中御歌題　宮廷月並御歌會の兼題左の如しと承る

一月	池[illegible]鶯	七月	松下禪尼
二月	遠峰霞	八月	初秋雨
紀元節	梅花始開	九月	山中萩
三月	巨勢金岡	十月	深夜雁
四月	古宅柳	天長節	菊有新花
五月	尋殘花	十一月	海外商
六月	窓[illegible]竹	十二月	社頭獻

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

篤志看護婦人會　日本赤十字社の同會は去月十九日開講當日に於て發起人の集會を催ふし協議の末幹事長殿下の指揮ふ依り本年一月より六月までの月番幹事ふ（一月）佐々木貞子、橋本操子、（二月）一條治子、松平慈貞院、（三月）毛利安子、花房千鶴子、（四月）西郷清子、松平昭子、（五月）蜂須賀隨子、大山捨松、（六月）松方満左子、長岡和久子を撰定し幹事補の任期を短縮して二ケ月とし會員循環其責に當ることに定め來る一、二兩月の幹事補を石坂道子、大井信子、片山佳妙子、桑田貞子、石黒久嘉子に屬托し幹事副長并ふ月番幹事を增員す卽ち華頂宮郁子殿下、久邇宮榮子女王殿下を幹事副長ふ推戴し小笠原純子、前田淑子、小澤桑子、岩倉久子、前田朗子、一條良子、田中伊與子、揖子三和子、清岡覺子、上野イク子、三條知惠子、伊藤生子に月番幹事を囑托し且つ同會議員規則を議定したりと女學雜誌第百四十三號に見ゆ

○女子奬勵會　朝野の貴紳貴女等の設立せられさる麹町區永田町ある女子奬勵會の搆內に新築中なる附屬高等女學舘は日本土木會社の受負ひにて本年二月迄ュ竣功の見込なる由なるら四月上旬ュは開校の都合に至るべしと云ふ

○大日本婦人衛生會　同會は本月五日午後一時半より本年の發會を開かれ宮本仲日開會の祝辭を述べ次ふ加藤照麿氏は小兒保育法と云へる題ふ就て食物と衣服との事を講演し終りて種々面白き游戯を爲し一同歡を盡して退散せしハ四時過る頃なりと云ふ

○東京府高等女學校　今度京橋區南小田原町四丁目八番地に新設したる同校は修業年限を三箇年とし一箇年を一學期とし て女子に高等の學科を敎授するの目的を以て設立したるものにして大束重善氏校長に任せられしといふ

○美術學校　小石川植物園內ある東京美術學校ハ舊臘より漸次ふ上野公園內ある敎育博物舘中へ物品の運送中あさしが彌々過日全く移轉濟と成れり

○保姆　高等師範學校附屬幼稚園にては是迄有志者中より保姆を募集し來りしが自今新ふ各府縣師範學校內へ幼稚園を設けらるゝふ付傳習の爲め各府縣より保姆を募集せらるゝよし

○長野尋常師範學校女子部　ふては賄方を廢して生徒の自炊となし生徒三名を去て十日間宛輪番ふ勉めしむる由なるが尙ほ聞く處に因れば女生徒は一週間り手當金十錢の內より二錢宛の貯金をなし居る由

○文部省直轄學校學生々徒　去年六月末の調査ュ係る文部省直轄學校學生、生徒の現員及其入學、退學、卒業、死亡數中高等師範學校女子部及東京高等女學校東京音樂學校ヒ左表の如し

	現員	官給	貸費 自費	入學	卒業	退學	死亡
高等師範學校女子部	八〇	八〇	〇	二七	〇	七	〇
東京高等女學校	一三七	〇	一三七	二七	〇	二四	〇
東京音樂學校	七五	〇	三五	一	〇	〇	一

東京府下女學校案内

高等師範學校女子部　本郷區湯島○倫理敎育國語漢文英語數學簿記地理歴史博物物理化家事習字圖畫音樂体操（四ヶ年）

高等女學校　神田一橋通町○倫理國語漢文英數地理歴史博物生理理化敎育家事習字圖畫手藝唱歌樂器体操○敎授料二圓

明治女學校　麹町區飯田町三丁目卅二番地○女性必要の敎育○束修二圓授業料一圓三十錢本科一圓五十錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

跡見女學校 小石川區柳町○和漢學英學數學繪畫裁縫編物○束脩一圓五十錢月謝和漢數習字英語一圓習畫裁縫編物五十錢

女子英佛學校 神田區猿樂町六番地○英學部佛學部○束脩月謝各一圓乙科（編物裁縫刺繍造花玩具音樂圖畫）

成立學舍女子部 神田區駿河臺甲賀町○女子須要學術技藝○束脩三圓月謝本科高等科幼年科一圓五十錢高等師範科二圓

共立女子職業學校 神田區一ツ橋通町○裁縫編物刺繍造花圖畫習字算術家事理科○東脩甲一圓乙半圓月謝甲一圓三十錢乙八十錢

靜女塾 神田區駿河臺鈴木町○英學和漢學數學習字裁縫○東脩一圓授業料一圓五十錢食料三圓油炭費卅錢

海岸女學校 築地明石町十三番地○和漢英學聖書師歌体操○東脩一圓月謝一圓音樂月謝五十錢

東京女學 芝區南佐久間町二丁目一番地○女子に關適する學術技藝○入學金二圓全科授業料一圓四十錢

東洋英和女學校 麻布區鳥居坂町十四番地○英學豫科本科普通學豫科○東脩一圓授業料一圓賄料浴湯其外雜費共一ヶ月三圓

松香女學館 神田區中猿樂町十七番地○修身讀書作文習字算術英學歌詩琴箏點茶裁縫○東脩五十錢授業料一圓七十錢

靜修女學校 神田區小川町十四番地○英學○通常生東脩五十錢月謝五十錢○別席東脩一圓月謝一圓

通義女校 芝區公園地第五十八號○和漢學習字裁縫禮法○東脩三十錢乃至一圓月謝三十錢乃至五十錢○別科英學部

櫻井女學校 麴町區中六番町五十二番地○普通學及女子必樞の技藝兒童教育法等○東脩二圓授業一學期（五ヶ月）十圓

平川女學校 麴町區平河町四丁目○英語學和漢學日本裁縫編物○入學金一圓授業料本科一圓豫科五十錢教場費十五錢

柴山女學校 神田猿樂町二十五番地○普通科編物裁縫漢學數學各二十錢英學三十錢○高等科英學數學漢學各五十錢

興風女學校 神田駿河臺袋町十六番地○英文漢文和習字數學裁縫○東脩一圓授業料一圓別科（點茶挿花和歌）月謝五十錢

香蘭女學校 麻布區永坂町一番地○修身英學和漢學理文數學家理雜科○東脩二圓授業料一圓五十錢

東京裁縫女學校 本郷區湯島切通坂町廿九番地○裁縫編物帽子飾英語禮西洋料理法○東脩一圓五十錢月謝一圓二十錢

麴町産婆學校 麴町區麴町八丁目五番地○産婆養成（十八ヶ月）東脩五十錢月謝五十錢

（東京諸學校獨案内）

新婦人

第四號目錄

社説
　識既ノ述懐並ニ本誌改良ノ豫告
　理學博士矢田部良吉君ノ女學校論
論説
　男女ニ職分ノ區別アルハ自然ノ理ナリ　法學士 嵯峨根不二郎
　婚姻論　秩溪 瀧夫
學藝
　家政學　家庭の風儀
　料理法＝魚肉使用法＝育兒法＝赤兒の保育　帝國大學D、K
　理科　空氣の話　工學士 若山由五郎
　兒童教育學一班
文學
　徒然草講義　鈴木弘恭
　爐邊閑話　河內荻子
　和歌十五首　四季今様二首　詩五首
賢婦傳
　賢婦人　第三……　孤琴女史
小説
　人ハ書生　花に迷ふ蝶……　南山人
批評
　四小説雜誌の評判　都の花　小説萃錦　大和錦　我樂多文庫　櫻濱禁酒會雜誌　文法口授和文獨案内
投書
　神戸女學校の近況　塚本不二子

一部定價八錢半ヶ年前金四十五錢全國無郵税

發行所　東京麴町區飯田町三丁目二十番地　**新婦人社**

廣告

本誌發刊以來日月尙淺ケレ𪜈着々發實ノ歩ヲ進メ万事整頓ノ途ニ上リ漸次盛昌ノ勢ヲ顯ハスノ幸運ニ立至タレハ玆ニ**本月第五號ヲ以テ本誌ノ改良ヲ施行シ**紙面ヲ張大シ紙數ヲ增加シ學士大家ノ論説學藝文學小説佳傳叢話等記載ノ事項ヲ增加シ專ラ精粹ナル材料ト確實ナル事實ヲ撰ミ印刷製本挿畫用紙等一層ノ注意ヲ加ヘ殊ニ**本號ニハ新年祝**ノ面白キ華麗ナル**挿畫附錄**ヲ加エタレハ本紙上ニ一層ノ價値ヲ添エタルモノトス敎育ニ熱心ナル貴婦人紳士幸ニ愛讀ノ榮ヲ垂レヨ

社說

寄書家

姓名

いろは順

讀賣新聞記者 紫芳 加藤瓢乎先生
東京日々新聞記者 蓼州 塚原靖先生
讀賣新聞記者 篁村 饗庭與三郎先生
やまと新聞記者 採菊 條野傳平先生
朝野新聞記者 韜庵 吉田熹六先生
繪入朝野新聞記者 香雪 前田健二郎先生
大坂毎日新聞記者 三昧 宮崎璋藏先生
改進新聞記者 南翠 須藤光暉先生

毎月(五日廿日)二回發行

小說萃錦

本月五日發行

第五號目錄

蓮葉娘……饗庭篁村
月雲兩面鏡……採菊散人
椿の花把……加藤紫芳
大川物語……霧のや主人
曼府叛亂……塚原蓼州
轉宅叢談……香雪散人
金香露……香泌園主人

發行所
東京日本橋區通四丁目
春陽堂

本誌要領

○本誌は當時文學社會に著名なる小說家の傑作を集蒐せるものにして實に題號に背かざる好雜誌なり

○本誌は前金に非れは一切發送せず一册定價十錢五册前金四十五錢十册前金八十五錢外に毎册郵稅二錢

○本誌廣告料二十行一回金八錢(十五行以上一割引三十行以上二割引)

○本誌載する所の小說其一部大尾に至りしときは美麗なる表紙を製して進呈をへし

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

新年一月二日賣出

美妙齋主人著

ぬれごろも

主人公は四歳から十二歳迄の男女二人ぢ小兒。

種類は世話物、骨子は繼子。

趣向は哀れな物。人物は日本人と支那人。

初編　定價金卅五錢　郵税金拾貳錢

發兌　金港堂　東京本町三丁目十七番地

著者は美妙齋主人挿畫は尾形月耕。

文章は言文一致。回數は九回。

親子の情と小供の心。それが此小説の眼目。

●東京婦人 矯風雜誌　毎月第三土曜日發兌

該雜誌ハ編集委員秋紅女史淺井さく女の編輯ニ係リ毎號論説ハ自身筆ヲ採リ●雜錄●會報●外報●雜報●小説●寄書等新説ヲ蒐輯セリ●一冊金五錢●半ヶ年分金三十錢●一ヶ年分金六十錢●府内郵税ヲ要セス●爲替ハ小石川局●郵劵代用一割増●

東京小石川區小日向臺町一丁目五番地

東京婦人矯風雜誌編輯所

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

英國法學士技藝士
日本文學博士 末松謙澄先生譯

谷間の姫百合

初巻定價金四拾錢郵税金拾四錢●第貳巻定價金四拾錢郵税金拾四錢

初巻（再版）

貳巻（新版）

諸君御待兼の谷間の姫百合は愈く製本出來上り來る**新年一月二日**より賣出し仕候**初巻**は疾に賣切れ候を此度再版致し候已に當時の諸新聞及各雜誌に十分の批評もこれあり候得は今更ら彼此れ吹聽不仕候本書が高尚優美の思想と流麗微妙の筆とを以て近時小説社會に一生面を開きし疑ひもなき事實にて**恐れおほくも九重の畏きあたりの思し召しにとまり早く二の巻を見まほしとの御仰せ**出版者の面目此上にや候ふべき**二巻**は諸君おなじみの有洲成人が書きし油書よりして一條の風波を起し遂に虎子と離別する事雙生の娘緑、琉璃が生育より緑か他の遊冶郎の爲めに身を過つ事有洲伯の病死により十餘年間他郷に瓢泊せし成人か有洲に歸り二人の娘よ對面する事等凡そ十回之を初巻に比するに更らに一段の佳境に入りしを覺ふ已に初巻を讀みたらんには必ず二巻を繙かんことを思ひ二巻を繙かば又必ず初巻を讀まんことを思ひ玉ふべし

發兌 東京日本橋區本町三丁目拾七番地 金港堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十七號目次

家政。 衣服の好。
細君虎の卷。
額緣の洗ひ方。
產前の心得。

小說。 空行く月第八回第九回（美妙齋作）

衛生。 日本風俗所改良策＝衣服論（醫學士竹中成憲氏）

流行。 此頃の女生徒の衣服の着樣＝着物に半衿を掛けぬ新流行＝上着＝下着＝敷布＝羽織＝襦袢袖口＝羽織の掛金及紐＝うこん香の露及大豁微の露＝株或八千鳥のかんざし＝小紋の風＝不斷着＝頭巾＝淑女の手ぶくろ＝肩掛。

講義。 用器畫稽古の仕方。

文藝美術。 聽音法（上眞行氏）
柳櫻都錦繪（立花屋かをる作）

寄書。 如何に女子を教育すべきか＝母親の述懷。

批評。 新文學誌＝文明の花＝晃山紀遊＝情＝都の花＝小說萃錦さこがね＝女學雜誌の舞踏論。

通信問答。 化學についての問答＝顏の色を白くする法及毛生藥の事＝雀斑などの後口の臭さを直す法＝カバンの汚を洗ふ法＝聲をよくする法＝白地の着物に墨のつきたるを落す法＝めで度かしくの解＝唐縮緬をフランネルに似する法＝髮の赤きを濃くする法＝肥滿を防ぐ法＝雨中吟未來記＝三錢＝色黑き肌を治す法＝呑水の直段＝疑問＝熨斗の濟鶴。

論說。 女子職業の天惠（中川霞暖氏）

餘興。 新作懸賞（懸賞金港堂出版の小說）

月報。

いらつめ第十八號目次

論說。 女學の進步。

小說。 空行く月第十回（美妙齋作）

講義。 用器畫稽古の仕方。

文藝美術。 文發。
樂典初步（上眞行氏）
柳櫻都錦繪（立花屋かをる作）

近刊批評。 政黨美談淑女の操。
三婦人雜誌の世評。

流行。 松葉小紋＝唐松小紋＝獨鈷小紋＝唐草紋＝本字モノクラム＝香水瓶＝秋月の時計＝簪＝名刺＝春着一班。

寄書。 竹子孃の御許へ。
へでな。

家政。 禮儀の事。
受取書を取る事。
產室の心得。

雜集。 衣服の好。
それは昔しこれは今。

通信問答。 照子さまへ＝リスリンの効用＝鼻血を止める法○さもゑ女史へ＝我樂の評○石川しづ子さまへ＝にきびを去る法＝絣鯉の仕方○陸中盛岡田舍娘さまへ＝顏の赤きを醫す法○美濃撫箏女史へ＝うつぎ花さ卯の花＝齒磨に食鹽を用ゆる事○松岡小夢女史へ＝蜜柑さ葡萄の貯へ法＝女子家庭の教育に就ての質奴孃へ＝頭の生際を濃くする法○阿部梅子令孃へ＝痰を止める法＝聲をうるはしくする法○小蝶さまへ＝傳授所につきて○岡田令孃へ○紫銅に付て疑問の答＝熨斗の濟鶴

懸賞和歌文章

月報

いらつめ

發兌＝毎月十五日に發兌すへし

定價＝一冊八錢＝半年（六冊）四十五錢＝一ケ年（十二冊）八十錢

郵稅＝一錢＝六錢＝十二錢

合計＝九錢＝五十一錢＝九十二錢

郵郵＝郵便爲替は拂渡局名欄內に（神田郵便局）と記し受取人欄內に、神田駿河臺南甲賀町八番地成美社）と御認め被下べくい又郵券代用ハ郵便爲替の無き地に限り一割增

爲替＝なれハ妨なし
但し一錢切手ニ限る

見本＝見本一冊御入用の方は一錢郵券九枚にて發送可仕候

發行兼編輯人　山田武太郎　印刷人　佐野忠吉

東京神田區駿河臺南甲賀町八番地

發行所　成美社